



主な展示製品

- 医用画像情報システム
「SYNAPSE 5」
- 統合アーカイブシステム
「SYNAPSE VNA」
- タブレット型超音波画像診断装置
「SonoSite iViz」
- カセットDR
「CALNEO Smart S47」
「CALNEO Smart S77」
- 放射線部門管理支援サービス
「ASSISTA Management」
- 統合診療支援プラットフォーム
「CITA Clinical Finder」

テーマ Value from Innovation

～医療のいちばん近くから、次代を見つめる～

今回の主力展示製品は「SYNAPSE」シリーズ。特にITEM初日に発表された「SYNAPSE 5」はデモ機8台という力の入れよう、3次元画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」も6台を用意し、詰めかけた多くの来場者に対応していた。

医用画像情報システム 「SYNAPSE 5」

アーキテクチャを一新し、より高速な画像表示性能を実現した最新バージョンの「SYNAPSE 5」を展示（発売は5月1日）。同システムは従来、サーバ管理の画像をクライアント端末に送信して必要な画像処理を行っていたが、最新型はサーバ側で全ての画像処理を行い、その処理結果のみをクライアント端末に送信する『サーバサイドレンダリング』を導入。通信データ容量の低減によりネットワーク負荷を軽減し、従来比2倍に相当する画像処理・表示高速化および大容量検査画像の配信を可能とした。

また、「SYNAPSE 5」で管理する全画像はHTML5対応のWebブラウザで閲覧可能。これにより、クライアント端末へのビューソフトのインストールが不要となり、ブラウザのバージョンや種類への依存度も低



SYNAPSE 5

減。さらに端末にHTMLページや画像データ等のアクセス履歴が残らないため、セキュリティも担保されている。これらは昨今の地域医療連携や病院連携等のニーズへの対応が目的であるという。

タブレット型超音波画像診断装置 「SonoSite iViz」

画面サイズ7インチのタブレット型本体とセクタプローブで構成する可搬型超音波画像診断装置。本体外寸18.3(L)×11.7(W)×2.7(H)cm/重量約520gの小型軽量設計ゆえ、白衣のポケットに入れての持ち運びや、片手で本体を支えながらの親指操作が可能。その他機能面では、140万画素の高精細画像が特長として挙げられる。Bモード/Mモード/カラードプラに対応し、心臓領域や産科計測も可能。通常は心臓と腹部で1本ずつプローブを用意する必要があるが、同装置は1本のプローブで対応することも特長の1つ。また、本体へのカメラ機能の搭載により、救急や在宅医療現場において患者の意識状態や外傷等の静止画や動画が撮影できる。無線LANも搭載しており、現在開発中のPACS機能が実用化された暁には検査画像の送信・



SonoSite iViz

連携が可能となる。

「SonoSite iViz」の開発コンセプトは『超音波画像診断装置の新たな応用分野の拡大』。救命救急や災害時のスクリーニングツール活用や、在宅・訪問・僻地医療における検査の質向上などが、その応用分野に該当するという。5月20日に発売。

カセットDR 「CALNEO Smart S47」 「CALNEO Smart S77」

2014年12月に登場したカセットDR「CALNEO」の最新バージョン。14×17インチの「Smart S47」と、17×17インチの「Smart S77」が4月13日に発売された。ともにフラットパネルセンサ内部構造の見直しにより、従来シリーズの特長を維持しつつ100gの軽量化とX線の感度向上を実現したことが製品の特長である。カセット重量は「S47」が2.5kgで、「S77」は3.1kg。従来機器よりも軽量でありながら、独自フレーム構造の採用等により全面耐荷重310kgを実現。機能面ではVirtual Gridなど新しい画像処理・解析技術が活用できる。

また、同製品はクリニック向け画像診断ワークステーション「C@RNACORE」との連携が可能。「C@RNACORE」との連携により、放射線科医の読影を支援する胸部アドバンス処理や胸部経時差分処理、骨塩測定機能などの画像アプリケーションが利用可能となる。



CALNEO Smart S47

統合アーカイブシステム 「SYNAPSE VNA」

診療科毎に異なる病院内のPACSやシステム、複数施設間で別々に管理されている多様な診療情報を一元的に管理・保管し、共通のルールで運用するための統合アーカイブシステムで、4月15日に発売された。『VNA』は『Vendor Neutral Archive』の略称。ちなみにVNAは、医療情報連携の国際標準規約の1つであるIHE XDS統合プロファイルに準拠した形で、特定ベンダの制約を受けない標準インターフェースでの医療情報管理を可能にするアーカイブシステムの考え方である。

「SYNAPSE VNA」の管理・保管対象はDICOM画像やJPEG画像、MPEGの動画、PDFファイル等であり、CTやMRI画像、内視鏡検査や手術時の撮影動画などを一元的に管理できる。同システムで一元管理



SYNAPSE VNA

する診療情報を各診療科システム専用のビューワで参照したり、複数の診療科を受診する1患者情報を一覧したりする情報検索も可能となる。また、国際規約のIHE XDSに対応しているため、地域医療連携における情報共有基盤としての活用も期待される。